

会議状況等報告書						報告者	森川 陽子					
会議の名称		令和5年度第2回大府市文化懇話会										
日時		令和5年10月26日(木) 15時30分～16時45分					場所	歴史民俗資料館 会議室1				
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	伴恵	間瀬 結子	越後谷 卓司	張悦	山内 副市長				
		○	○	○	○	欠	○	○				
	事務局	近藤 部長	田中 課長	永露 係長	小野 主事	森川 主事	小田原 館長	内藤 館長	松井 館長			
○		○	○	○	○	○	○	○				
傍聴者 0名												
内容												
<p>1. あいさつ</p> <p>◆加藤武志座長あいさつ 今回は今年度2回目の開催となり、上半期の事業等の確認と、大府市文化芸術振興指針の改訂についての2つが大きな議題になると思うのでよろしくお願いしたい。</p> <p>◆安田文吉先生あいさつ だんだんとコロナの影響が減ってきたため、文化活動が積極的に開催できるようになってきた。子ども歌舞伎も無事に開催できた。これを機に文化活動を推進できたらよいと思う。愛知県の取り組みでも、あいち伝統芸能はじめてフェスを開催するなど文化活動に積極的に取り組むようになってきた。大府市は様々な活動を開催するのに適した規模だと思われる。</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和4年度下半期事業実績について</p> <p>・資料No.1-1、1-2、1-3 1-4に基づき事務局説明 〈各施設からの補足〉 愛三文化会館館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回事業の開催後にアンケートを実施しているが、回収率が80%ほどあり、課題等、今後の参考になることが多い。 ・「大府市音楽祭 加古隆 50th アニヴァーサリーYear」では、演目がジャジーであり、演者は「生の音を聞かせたい」という思いがあり、楽器のみの音で演奏を披露したが、アンケートでは場所によって届く音が異なるという意見があった。事前のPRで、生音であることをお伝えしておけば良かったという課題が見つかった。 ・p29「趣味の入門講座」について、全17講座で256人の参加があった。それぞれの講座の参加人数は多くないが、例年と同じペースであれば今年も300人ぐらいの参加人数が見込まれる。 ・「趣味の入門講座」の目的として、①文化活動へのきっかけづくり②発表の場づくり（発 												

表するというモチベーション) ③会員の獲得を狙っている。講座を開催する団体は一生懸命開催しているが、3つの目的を自覚して展開しているかどうかは定かではない。こちらから目的を意識して開催してもらえようと呼びかけることが必要だということが反省点として分かった。

アローブ館長)

- ・コロナが終息し、事業も平常に開催できた。
- ・「アローブミニコンサート」について、市民が気軽に来館するきっかけとコンサート出演者の新規獲得を目指してきた。次回は3月にコンサートを予定しており、ボランティアの育み隊とロビーで行う打合せをしている。ホールでコンサートを行う良さも認識しているが、ホールがいいのか、ロビーがいいのか打合せを重ねて、見せ方を検討したい。
- ・「子育て応援！フラワー講座」について、平日の昼に開催する講座は、リピーターには好評だが、参加者が限定されてしまうのが欠点だった。p32の「お仕事・家事終わりのフラワー講座」は開始時間を18時30分から設定し、日中勤務している方でも参加できるように考えた。また、p30の子育て応援フラワー講座では会場の近くで託児を行った。

委員) (おおぶの杜育み隊として)

- ・「アフリカン Mali パーカッションコンサート」について、アフリカの演奏者を呼ぶことが多いが、マリは珍しかった。マリ本場の音楽が楽しめた。

歴史民俗資料館館長)

- ・企画展「没後20年 鈴木幹二木版画の世界」について、展示ディスプレイにガラスがないマット装のみで展示したことにより、直接作品を見ることができ、良かったという声があった。
- ・コロナ明けの夏休みということで、企画に力を入れた。
- ・洗濯板を用意して親子で体験してもらおうイベントや、竹細工をプレゼントするイベントが好評だった。夏休みの企画が数多くできたのでよかった。

〈意見交換〉

委員) p13の「文化活動事業補助金」について二次募集をすることのだが、ボランティアの意見から「市内在住の要件を満たせないため諦めた」との声があった。また、高齢化に関する課題があり要件を達成できない小さい事業もある。市民の文化団体にアンケートやヒアリングを行い、どれくらいの規模(構成人数)や、どんな課題があるかを把握してもらいたい。要件を見直すことで、新しい好循環が生まれるとともに今のニーズに応えられるようになると思う。

事務局) 「文化活動事業補助金」は、学んできたことを披露する場を支援する、という意味合いも持っている。一方で、団体自体の人数が減っている問題も認識している。要件や趣旨に合致するかどうかを積み重ねながら、補助事業を続けられるように新しい団体にPRし間口を広げていく必要があると考えている。もし、補助金について困っている、という声があった場合は、文化交流課にも相談いただければ補助金を活用できる方法など一緒に考えられるかもしれないので、その旨を団体にお伝えいただきたい。

委員) 大府は文化活動が活発で楽しいと広く知ってもらいたい。補助金を交付する市としても、ニーズや状況を把握してもらえたら考える。

- 委員) 茶華道も以前は補助があったが、今ではなくなってしまった。茶会に係る経費は、お茶やお菓子だけでなく、消耗品や人件費もある。今は、経済的なやりくりを工夫していたり、高齢化だったりと様々な問題があることを把握してほしい。
- 委員) 別の自治体では、一般的な補助金枠と、「はじめの一步」枠があり、補助額は少ないが市内在住人数の要件などのハードルが低い募集方法があった。裾野を広げるためにも、登竜門的な部門をつくるなど方法はあると思う。予算を増やすよりも、分配方法など執行の方法を工夫できるとよいと思う。そのためにも当事者の意見も把握できると良い。市役所の事業は、広くは知られていないものもあり、毎回同じ人や団体が申請している様子も見られる。初めての人にも補助金を検討する機会があってもよいと考える。
- 委員) 大府市でも、水緑公園課が実施している「提案型緑花推進事業」に、「はじめの一步」「中級」「上級」と同じような補助制度があり、とてもいい意見だと思った。一度検討してほしい。
- 議題にあがるような事業を、せつかくなら満員にし、たくさんの人に来てもらいたいと考えている。PR不足が課題であると感じており、若者に伝わっていないところを改善していきたい。他の会議では、大府市は文化のレベルが高いのに、伝わっていないという意見も聞かれたのでPR不足を肝に銘じて広報にも力を入れていきたい。また、事業報告でもあったようにバイオリン事業にも力を入れている。もっと活用してぜひ次回も盛大に実施していと思っている。
- 委員) 事業報告のあった講座について、ときどき「参加したいな」と思うことがあるが日中行われることが多く、都合がつかないため残念に感じる。p32の夜に行ったフラワー講座であれば、参加できるのではと感じたので良いと思った。
- 委員) 夕方に開催する場合、何時頃だと参加しやすいと思うか。
- 委員) 家族の晩御飯などが落ち着いてからがよいので、18時30分から19時頃なら行けるのではと思う。若い人は働いており、孫の面倒を見る人もいるので、その時間が有難いと思う。
- 委員) 大府市では多様なイベントを開催していてすばらしいと思う。事業の内容も質が高く、誰でも参加しやすいのもよい。事業を満員にするために、よりSNSを活用し、若者や大府市周辺在住の方にも呼びかけるとよいと思う。大府市は外国人も増えてきているので、歌舞伎教室もそうだが外国人向けの講座もあればいいと思う。文化を通して外国人の方とも交流できたらいいと思う。
- 委員) 11月5日に愛三文化会館3階和室で第3回茶遊会を開催する。第1回、第2回は大倉公園で開催した。再来年、県民茶会を開催するにあたって、今年度開催場所の長久手市を視察してきた。全て椅子と机の席が設けられており、変化がない気がした。大府で開催する際には、3階の小間も活用し、会場内でも変化を演出したいと考えている。来場者がどれぐらいくるか把握をしてから具体的に計画を立てたいと思っている。

(2) 大府市文化芸術振興指針の改訂について

・資料No.2-1、2-2に基づき事務局説明

質疑応答 特に無し

〈意見交換〉

助言者) p 37「大府の笑学校」について、お囃子は生演奏をしてもらった方がよいと思う。
事務局) 市が開催している落語会では CD 音源だが、小学生落語クラブでは保護者がお囃子を演奏しており、昨年はアローブでの寄席の際に生演奏があった。

助言者) 芸は、お囃子も含めて全体でひとつなので、そこも大切にしてほしいと思う。

助言者) p 50「大府子ども歌舞伎教室」について、今年も公演がうまくいったので良かった。外国人の参加をとという意見があったが、インドネシアに行き、五人男を演じたことがあった。また、来年ハワイの学生が来て歌舞伎をやる予定である。日本語でニュアンスを覚えて、英語で歌舞伎を演じる。外国人の参加については少し工夫すれば（例えば黒子など）できると思う。

助言者) 補助金について、愛知県の補助金は応募数がとても多かった。周知を徹底し、迷っている団体があった場合にきちんと申請ができるように指導することが大事だと考える。

委員) 他の自治体で補助金の審査を担当したことがあるが、プレゼンをしても何をしたいか伝わらなかったり、時間内にプレゼンが終わらないことがあった。そこで、どうしたら伝えたいことが伝わるかをレクチャーするようになり、翌年から改善がみられた。助言者が言うように、申請者を育てるという責任もあるように感じる。

3. その他

【次回開催連絡】

第3回大府市文化懇話会

令和6年1月23日（火）午後3時30分～